

学校便り

第363号
平成28年12月1日練馬区立光が丘第八小学校
校長 鈴木隆志

トイレの神様

校長 鈴木隆志

7月から実施しておりました本校西側トイレ改修工事が、竣工いたしました。長い期間、御不便・御迷惑をおかけしましたが、皆様方の御理解・御協力をいただき、予定どおりの完成となりました。今回新しくなったトイレは、西側1階から3階の児童用トイレと職員・来客用トイレの4カ所です。1階には、多目的トイレ（だれでもトイレ）を新設し、それに伴いシャワー室を移設いたしました。2・3階のトイレも、車いす対応のバリアフリー構造です。個室は全て洋式トイレとなっています。温水洗浄便座や自動水栓手洗いではありませんが、光っ子たちにとって快適なトイレとなりました。また、人感センサー付きLED照明なので、節電にも役立ちます。

新しいトイレのお披露目に合わせ、各階東西5カ所のトイレの前に、椅子を置くことにしました。光っ子たちがくつろげる場所、友達と楽しくおしゃべりができる場所として、また、来校いただいたおうちの方・地域の方がちょっと休める場所として、この椅子に腰をかけてもらえればと思います。そして、トイレをキレイに使ってもらえますようにという願いも込めて、一冊の絵本を置きました。絵本のタイトルは『トイレの神様』（植村花菜・文／とりごえまり・絵／講談社）です。

『トイレの神様』は、2010年に大ヒットした植村花菜さんの楽曲です。その年の日本レコード大賞で優秀作品賞及び作詞賞を受賞し、NHK紅白歌合戦でも披露されました。自身と亡き祖母との思い出を歌った9分52秒に及ぶ曲で、小学3年生から大人になるまでの実体験が綴られています。おばあちゃんと一緒に暮らしたこと、毎日お手伝いをしたこと、五目並べをしたこと、買い物のとき鴨なんばを食べたこと、そして、「トイレには それはそれはキレイな女神様がいるんやで だから毎日キレイにしたら 女神様みたいにべっぴんさんになれるんやで」というおばあちゃんの言葉…。おばあちゃんは亡くなってしまいましたが、おばあちゃんは今も植村さんの心の中に生きています。家族を思い、愛する気持ちがいっぱい溢れている名曲、そして絵本です。

11月20日は「家族の日」、13日～26日は「家族の週間」でした。子供を家族が育み、家族を地域が支えることの大切さについて理解を深めるために、内閣府によって定められた記念日です。

『家族の日』という映画（大森青児監督）も公開されました。君原家は一見ごく普通の家族ですが、長男（11歳）はいじめの被害者、長女（14歳）はいじめの加害者という悩みを抱えていました。都会から田舎へ移住し、人と人との絆、家族との絆を取り戻そうとします。絆を失いかけた家族の、ひと夏の物語です。「おはよう」と言って起き、「おいしい」と言って食べ、「ありがとう」と言って一日が終わる、当たり前の「家族の日」がどれだけ大切なことなのか、この映画は教えてくれます。

子育ての悩み事は尽きないものです。子供の褒め方や叱り方に悩んだり、子供の将来を案じたり、子育てのストレスを抱えたり、親だけで悩んでいても、解決しないことはたくさんあると思います。家族は、学校や地域と一緒に子供たちを育てていくという、「共育」の思いをもち続けてください。

光っ子たちそれぞれの家族が、あったかい絆を紡いで幸せに暮らしていけるよう、願っています。

*多目的トイレ（だれでもトイレ）には、温水洗浄便座、自動水栓手洗いが付いています。

**1階西側トイレ前を除く。